



三原駅前商店街振興組合 市補助金を活用して 地域活性化イベント「謎解き宝探し」を実施

昨年12月、駅前商店街振興組合(以下、振興組合)が、中心市街地の活性化を目的として、マリンロード商店街(以下、商店街)を舞台に「謎解き宝探し」を開催。イベントの企画・運営は振興組合、本所、(株)まちづくり三原の3者と、県立三原高校の授業「堅志学」の「まちづくりのクラス」に所属する生徒により行われました。

今回は振興組合の原野さん(ゑびす家)に、尾田経営指導員がお話をお伺いしました。

◆地域の活気を地域の人で取り戻す(イベント企画の背景)

尾田：まず、イベントを企画するに至った背景を教えてくださいいただけますか。

原野：近年、中心市街地では人の流れが減少し、活気を取り戻すための施策が求められていました。そこで振興組合では、コロナ時から「謎解き宝探し」を専門業者に一括で取りまとめいただく形で実施していました。今回は商工会議所の協力のもと、市の補助金制度を活用し、楽しみながら地域の魅力を知ってもらえるイベントを「三原の人の力」だけで開催することを考えました。



▲謎解き宝探しゲーム2024のチラシ



▲ゲームの様子
宝を発見し(左)、商店街で景品GET(右)

原野：参加者数が予想を上回り、(ゴール達成者が300人を超えました。)特に家族連れや若者グループが多く見られました。参加者からは「地域の新しい魅力を発見できた。」「子どもと一緒に楽しめた。」といった声を頂きました。商店街からも「新しいお客様が来店された。」との声上がり、一定の経済効果も確認できました。

◆楽しみながら地域の魅力発見、高校生の活躍も(イベントの特徴、反響)

尾田：イベントの内容や特徴について具体的に教えてくださいいただけますか。

原野：まず、三原駅周辺の小中学校に向けて、謎解き問題を配布しました。問題だけで、答えにたどりつく場合もありますが、解けない場合は商店街に数ヶ所設置してあるヒントを確認し、再チャレンジして、最終的に宝の場所を見つけ出します。これにより、商店街に足を運んでいただき、普段気づかない地域の魅力を発見してもらえることを狙いました。そのため、すんなり解けない問題が望ましいということになります。高校生の問題は難しく、まさにこちらの思うところでした。

また、景品を振興組合加盟店の商品や商品券を提供頂くことで、地域経済の活性化にも少しながら寄与しました。

あと、宝を探すことに成功した方の景品の交換には、高校生が土日にボランティアとして参加してくださいました。授業の一環ではあったと思いますが、人手の少ない振興組合としては大変助かりました。高校生にとっても、商店街について少しは身近に感じられたと思います。

尾田：参加者の反応やイベントの成果についてはいかがでしたか？

◆今後の展開について 連携を図り、継続開催へ

尾田：今後の展望や課題についてはどうお考えですか。

原野：今回の成功を踏まえて、定期的な開催を視野に入れています。ただ、継続的に開催するためには安定した資金確保や、商店街の協力体制が必要です。今後も商工会議所やまちづくり会社と連携して、より良いイベントにしていきたいと考えています。

中心市街地の活性化を目的とした「謎解き宝探し」は、多くの人々に地域の魅力を再発見してもらう機会の一助となりました。また、「謎」の作成を三原高校の学生が、「企画・運営」を振興組合、商工会議所、(株)まちづくり三原が行うことで、専門業者に一任していた時と比べて、経費の圧縮に成功したことから、継続性の一端を示すことができました。地域の活気を取り戻すための第一歩として、今後の事業発展にも期待が寄せられます。



ゑびす家店舗前にて
尾田経営指導員(左)・原野さん(右)

聞き手：本所 経営指導員 尾田 文治